ビデオ通信

2017 年
10 月 5 日（木）
No.4121

月・木曜日発行
1 ヶ月￥11,000（税別）
発行：飯澤 剛　　編集：齋藤 浩一

ユニ通信社
〒106-0047
東京都港区南麻布 5-2-37
DEPECHE MODE　1F
TEL：03-5422-7515
FAX：03-5422-7516
E-mail：vt@uni-press.net

映学社

『こんにちは 金泰九さん』がバリ島の国際映画祭でも受賞
バリ島の高校では作品上映と髙木監督の講演も

バリ島のアナ・アグン・ムラ・タカルサラ王（中央）から表彰される髙木裕己氏

㈱映学社が制作した人権学習教育映画『こんにちは 金泰九さん～ハンセン病問題から学んだこと～』（2015 年）が、今年 3 月にインドネシア・バリ島で開催された「女性、社会問題、差別撤廃のための国際映画祭 2017」で優秀賞・プラチナ賞に選ばれた。この受賞をきっかけに、7 月にはバリ島の高校で同作品を上映するとともに、同社代表取締役社長であり、脚本・映画監督の髙木裕己氏が、ハンセン病と人権教育に関する講演を行った。インドネシアでは今でも毎年 1 万 6000 人以上が発症するため、ハンセン病に対する関心は高いが、「ハンセン病とはどういうものか」という教育はほとんど受けていないという。髙木監督はハンセン病の基礎知識を解説するとともに、〈ハンセン病患者やその家族への人権侵害を起こさないためには、ハンセン病を正しく知り、正しく伝えていくことが大切〉と強く訴えた。高校生たちからは「ハンセン病を正しく理解するキッカケとなって大変よかった」などの大変好意的な感想が寄せられたという。

上映会・講演を行ったルタ・バンサー高校の生徒たちと髙木氏の集合写真

多数の海外アワード受賞

『こんにちは 金泰九さん～ハンセン病問題から学んだこと～』は、第 33 回全国中学生人権作文コンテストの法務大臣賞を受賞した後藤泉稀さん（広島県福山市・盈進中学高等学校）の作文「NO! といえる強い心をもつ」を映画化したもので、同校ヒューマンライツ部による長島愛生園で暮らす金泰九さんとの交流を通し、ハンセン病の歴史や人権侵害を二度と繰り返さないよう強く訴えかけていくドキュメンタリー作品。2016 年に「国際人権映画祭」（インドネシア・ジャカルタ）金賞・

『こんにちは 金泰九さん』

審査員特別賞（本紙 2016 年 10 月 6 日号で既報）、「ハリウッド国際インディペンデントドキュメンタリー賞」（アメリカ・ロサンゼルス）奨励賞、「アウェアネス映画祭」（同）優秀賞、数多くの国際映画祭で受賞している。

また、2017 年には「国際インディペンデント映画賞」（カナダ・バンクーバー）で短編ドキュメンタリー部門・銅メダルと障害部門・銀メダルの受賞に続き、3 月には「女性、社会問題、差別撤廃のための国際映画祭 2017」（インドネシア・バリ島）で優秀賞・プラチナ賞を受賞している。

「女性、社会問題、差別撤廃のための国際映画祭」は、ジャカルタの「2016 年国際人権映画祭」を見たアナ・アグン・ムラ・タカルサラ王が、その上映作品から「バリ島でも見せたい映画」を選んで開催したもの。『こんにちは 金泰九さん』のほか、米国の教育映画とドキュメンタリーの 3 本が招待上映され、3 月 18 日にバリ島のアナ・アグン・ムラ・タカルサラ王宮で行われた表彰式で、高木監督が賞状とトロフィーを受け取った。

「高校生にも是非見せたい！」というバリ島の王様の熱意が実現

また、7 月 18 日にはバリ島の高校で、『こんにちは 金泰九さん』の上映と講演「ハンセン病と人権」が行われた。

これは、同映画祭の表彰式会場で、「この映画を是非、バリ島の高校生にも見せたい」というアナ・アグン・ムラ・タカルサラ王からの提案に応えて実現したもの。

男女共学で約 500 人の生徒が在籍するルタ・バンサー高校の 1 年生（約 50 人）に対して教室で映画を上映。さらに、高木監督はハンセン病の基礎知識として「感染力が極めて弱く、ほとんどの人が自然免疫で感染・発症を避けられる」と説明したほか、日本の「絶対隔離政策」により多くの患者やその家族に対する人権侵害があったことなどを紹介した。

生徒たちからは「ハンセン病を患った人達にも、優しく接したいと思った」「ハンセン病だからといって、差別しないようにしたい」「ハンセン病がどういう病気かよくわかりました」「日本の中学生は本当に広い心を持っているんですね」「ハンセン病の人達を助けてあげたい気持ちになった」「このビデオは好きです。ハンセン病を正しく理解しようと思います」などの感想が寄せられたという。

高木氏は〈インドネシアは、ブラジル、インドに次いでハンセン病を発症している三大発祥地です。インドネシアは年間 1 万 6000 人～ 1 万 8000 人が発症しており、関心は高いのですが、「ハ

市民安全啓発映画祭（仮）でも上映と講演

映学社は、11 月 25 日に秩父市で開催される「市民安全啓発映画祭（仮）」に協力する。

同映画祭は、第 15 回日本市民安全学会全国大会の第 1 部として初めて実施するもの。

日本市民安全学会は、「市民の安全」について市民による市民のための「市民安全学の研究」を深めることを目的として 2004 年 4 月に設立された学会。市民が中心となりながらも、市民・警察・自治体が三位一体となり、市民安全学の発展・普及および研究者相互の連携・協力を図る活動を展開しており、髙木氏が顧問の 1 人をつとめている。

映画祭では、秩父を舞台に映学社が制作した交通安全教育映画『パパは風になった』（写真→）を上映するほか、「（仮）映像の中で安心安全をどう描くか」をテーマに、髙木氏が特別記念講演を行う。

また、3 つの分科会のテーマに即した啓発映画として、今年の教育映像祭を受賞した『事故や事件から人を守る 町を守る 警察しょのはたらき』のほか『火災から人を守る 町を守る 消防しょのはたらき』『防げるか？認知症 注目される食の力』の計 3 作品（いずれも制作は映学社）を上映する。

ンセン病とはどういうものか？」といった正しい教育を受けていないため、「ハンセン病は怖いもの」といった意識を抱いています。今回の試みによって、バリ島の高校生にもハンセン病を正しく知り、正しく伝えていくことの大切さを伝わればと思っています〉と話しており、現地からは来年も開催して欲しいとの要望が来ているという。

教育映画で正しい日本の情報を海外発信

映学社では、防災・交通・人権を三本柱に教育映像を自主製作しており、世界共通の問題をテーマとした作品については英語版も制作、積極的に海外の映画祭などに出品している。日本の超高齢化社会をテーマとした『最期の願い－どうする自宅での看取り』（ワールドメディアフェスティバル 2015 で銀賞）や、今回の『こんにちは 金泰九さん』に続き、第 34 回全国中学生人権作文コンテストで法務大臣賞を受賞した福岡県久留米市の中学生の作文を映像化し、平成 29 年度優秀映像教材選奨（教育映像祭）で優秀作品賞を受賞した『涙に浮かぶ記憶 戦争を次世代へ伝えて』（←写真）についても英語版を制作する予定だ。

髙木氏は〈グローバル社会ですから、国内だけでなく、国際的な視点からも評価を受けられるようなことがあれば、ますますやりがいが出てくると思います。また、海外では日本の社会問題への関心が高いものの、日本の社会問題に関する正確な情報が不足しています。「教育映画」によって正確な情報を発信していくことが大切〉と話している。

◇映学社　http://www.eigakusya.co.jp/
東京都新宿区新宿 5-7-8 らんざん 5 ビル
TEL 03-3359-9729　FAX 03-3359-4024　MAIL info@eigakusya.co.jp